

- 町の掲示板 2
- 食を育てる 8
- 町の問題 9
- カルチャー 12
- 町の情報ひろば 14
- 町の花(春)桜 2
- 町の花(秋)コスモス 8
- 町の木 梅 12

個性を活かした生業(なりわい)の息づくまち



上毛町フォトクラブのみなさん

<http://www.town.koge.lg.jp>



● 編集 発行 / 上毛町役場企画情報課
〒871-0002
福岡県上毛町大字垂水132-11
TEL 0979-723111
FAX 0979-724664

● 印刷 / 築上印刷(有)

人の動き

6月30日現在

● 人 口	8,181 (+1)
● 男 性	3,893 (+1)
● 女 性	4,288 (±0)
● 世帯数	3,099 (+2)

参考

平成17年10月11日
合併時

●人	□	8,499
●世帯数		3,057

ごみの量

6月30日現在

● 可燃ごみ	122.54t (-11.84t)
● カン・ペットボトル	3.40t (+0.05t)
● びん	4.58t (-0.50t)
● 古紙他	13.57t (-3.40t)
● 可燃粗大	4.43t (+1.14t)
● 不燃	8.24t (-2.74t)
● プラスチック製容器包装	1.94t (-0.54t)
● 紙/パック、白色トレイ	0.10t (+0.02t)



育みあうまち 個性を活かした生業(なりわい)の息づくまち

こうげ素敵

まちの生業継承サポーター、まちの農林業をさまざまな視点から支えているみなさんをご紹介します。



安元輝己さん(安雲西)
食と農業の大切さを
体験から学んでほしい



今の子どもたちは、農業を知らない子が少なくありません。普段食べているお米が食卓に届く前にどのような姿形をしているのか知らない子どもがいます。昔は当たり前のように子どもたちが農作業の手伝いをしていたが今は「知らない(親が)させない、作らない」の「3ない」が目立つようになっています。

そのような中、西友富小学校では、平成21年度より学校応援事業の中で食育活動の一環として稲作体験学習をしています。私は、この稲作体験学習への協力依頼を受けて、昨年も子どもたちの指導をしました。これがきっかけとなり、今年も5年生の子どもたちに田植から収穫まで米作りの指導をしています。収穫後は、昔の稲作体験として足踏み脱穀機を子どもたちに体験してもらった予定です。

早速、6月22日(火)に田植体験をしました。子どもたちは、自分たちが植えた苗をのさで測ったり、一株の株の本数を数えてみたり、楽しみながら観察し生育を見守っています。

米をさまざまな被害から守るための苦労を知ってもらいたくて、稲を荒らすジャコボタニのこと子どもたちに教えています。稲作体験では、大変なことや苦しいこともあるとは思いますが、自分が植えた稲が育ち収穫して食べるといふ過程には、お金には変えられない喜びがあると思います。また、子どもたちの自信にもつながるのではないかと考えています。

米は主食として食べるほか、加工すれば菓子や餅、味噌、酒などになります。子どもの頃から、米ができる生産から消費までを体験すること、そして、地域の農産物を食べる運動に取り組むことで、将来大人になったときに地域で採れる米や農産物などに目を向け、地産地消を考えることができる、そんな大人になってもらいたいと願っています。

水、空気、酸素どちらも人が生きていく上で必要不可欠なものです。その空気、水は果たしてどこでつくられ、どこに貯えられているのか?

それは森です。上毛町には、たくさん山、森があります。その森のお手入れ、整備をするのが僕らの仕事です。

「山仕事とは何?」と最初は何も分からず、森林組合の門を叩きました。そこには過酷な労働が待っていました。「キツイ、汚い、危険」まさに3Kの仕事です。

しかし、山のきれいな空気、自然の中で食べる美味いお弁当、自分達が汗を流し苦労した分、山に育つ木々の成長が嬉しかったです。

最近、木材の影響で国内材の価格が上がり、いかに早く木材を搬出するか効率が事ばかり言われます。もちろん効率も大切ですが、しかし僕らはそれだけではありません。山主さんに喜んで頂ける森となににでも自信を持って見せたいきれいな森づくりを心がけています。

「きれいに・早く・安全に」が僕らのモットーです。

人が生きていく上で必要不可欠な空気(酸素)をつくり、水を貯える森の森の手入れ、整備をする仕事は大変やりにがいがあり、誇りの持てる仕事です。

これまでさまざまな理由で手つかずになってしまった森もたくさん見てきました。これらの放置された森を、きれいで明るい森に戻していくのも僕らの使命だと思っています。

まだまだ未熟ですが、これからも上毛の森でのお仕事、一生懸命頑張りたいと思います。



写真:左から、堀さん、笹原さん、宮本さん

宮本雄一さん(下唐原) 笹原敦さん(下唐原) 堀貴博さん(垂水)
上毛の森は僕らが守る!

8月の表紙 表紙の写真は、西友枝のホオズキ収穫体験です

7月26日(月)、大平保育所年長さん23名が西友枝でホオズキの収穫体験をしました。西友枝のホオズキは、毎年行列ができる「ホオズキ市(=さわやか市大平)」の主力商品。今回は、園児たちにホオズキを知ってもらうとともに、ホオズキが栽培されている田舎の風景を見て感じてもらうと企画したものです。ホオズキが収穫時期を迎えるこれからの時期、朱色に染まるホオズキが雁股山の麓を彩り始めると、それがネックレスのように見えることから「雁股山にホオズキのネックレス」と言われるなど、ホオズキは西友枝のふるさとを象徴するものとして地域の人たちに親しまれ息づいています。

こんにちは。企画情報課の森重一です。

大雨を降させた梅雨がようやく明けたと思いきや、今度は連日のかんかん照りで熱中症対策が大変です。みなさん、お気づきでしょうか?毎月広報誌の裏面に「人の動き」と題して人口や世帯数をお知らせしていますが、今月から平成17年の合併時人口を掲載することになりました。合併してもうすぐ丸5年。この間だけで、町の人口は318人も減っているのです!

7月26日(月)に大平保育所の園児たちにホオズキの収穫体験を提供してくれた西友枝の生産農家は、数年前までは10戸以上あったそうです。しかし、今では3戸程度しか残っていないといえます。このため「子どもと話すのは本当に久しぶり」「子どもたちと一緒に過ごせて楽しかった」といった声が印象的でした。子どもや孫が地域にいないという現状があります。

そんな地域の方々が用意してくれた体験は、本当にたくさんのおもてなしを盛り込んだものとなり、田舎のおばあちゃんの優しさ、温かさに包まれていました。

引率した保育所の先生は、普段は飽きっぽい園児たちが最後までちゃんと作業していたことにとても感謝していました。いつもと違う自然に包まれた環境、畑、そこにある作物、地域のおばあちゃんにふれることで、園児たちも好奇心だけでなく、他に何か感じるものがあったのではないのでしょうか。

こういった高齢化が進む地域の生産農家の「やりがい」「楽しみ」と、子どもたちの感性を磨き育て「体験学習」、これらをマッチングすることの大切さをヒシヒシと感じるひとときでした。

編集後記